



東北大学

平成25年9月30日

報道機関 各位

国立大学法人東北大学

世界を牽引する第一級研究者が集う訪問滞在型研究センター

「東北大学 知のフォーラム」が始動

パイロットプログラムは“ヒッグス粒子の発見と今後のゆくえ”

<概要>

東北大学は、「人が集い、学び、創造する、世界に開かれた知の共同体」として「ワールドクラスへの飛躍」と「復興・新生の先導」を確実に達成するため、その指針「里見ビジョン」を公表し全学を挙げて取り組んでおります。

このたび、里見ビジョンの主要施策の一つである訪問滞在型研究センター「東北大学 知のフォーラム」(Tohoku Forum for Creativity)を設置しました。ノーベル賞受賞者など世界の第一級研究者が東北大学に常時滞在し、人類共通の課題について、若手研究者や学生と日常的に議論できる場となります。

このセンターの中核となる活動は、人類の課題や世界動向を踏まえた戦略研究テーマを設定し、そのテーマを牽引するスター研究者を中心に、多様な分野の著名な訪問研究者を世界から集結させ、課題の解決に挑戦することです。まさに、本学の教員が主催する期間限定オールスター研究所です。本年は、そのパイロットプログラムとして“Particle Physics and Cosmology after the discovery of Higgs boson”を開催いたします。本学大学院理学研究科山本均教授主催、ノーベル賞受賞者の Steven Weinberg 氏 (リモート参加) David Gross 氏他、世界の著名研究者が一堂に介して、白熱の議論を戦わせます。全国の学生・若手研究者の皆さんのご参加を歓迎します。ぜひ広報にご協力くださるようお願いいたします。

・ Particle Physics and Cosmology after the discovery of Higgs boson

国際リニアコライダーが開く新理論「素粒子と宇宙ーヒッグス粒子を超えてー」

2012年暮れにジュネーブ郊外の CERN 研究所においてすべての素粒子の質量の起源とされるヒッグス粒子と見られる粒子が検出されました。ヒッグス粒子は素粒子の標準理論において唯一未発見の粒子でした。しかし、標準理論はいくつかの大きな矛盾を内包しており、それで素粒子物理が完結したのではなく、標準理論の矛盾と向き合わねばならないことが現実のものになりました。

”Particle Physics and Cosmology after the discovery of Higgs boson”では、素粒子の標準理論の構築、その後の素粒子物理学を牽引してきた第一人者を交えて今後の素粒子物理学の行方を探ります。

■会期：2013年10月21日（月）～10月25日（金）

■会場：東北大学原子分子材料科学高等研究機構 WPI-AIMR 本館

※<http://www.wpi-aimr.tohoku.ac.jp/en/about/access/>

■ホームページ：<http://www.sci.tohoku.ac.jp/tfc/index.html>

※このプログラムは東京エレクトロン社の支援を受けています。

(お問い合わせ先)

東北大学総務部広報課長 谷口

TEL 022(217)4816

FAX 022(217)4818

E-mail: koho@bureau.tohoku.ac.jp